資料館ノート　第 135 号　　令和元年 9 月 16 日発行

杉浦日向子の視点 ～江戸へようこそ⑥～

杉浦日向子が遺したもの

江東区深川江戸資料館

杉浦日向子は、ときに「江戸からの旅人・タイムトラベラー」などと評されることがあります。彼女が遺した作品は、漫画や江戸について書かれた書籍の他にも、体験取材物や小説、装丁などがあります。漫画を含めた単著の数は 30 作以上、対談集などの共著は 10 作に及びます。また、作品の映画化や翻訳出版など、海外でも人気を博しています。

本号では、杉浦日向子の没後に発表された作品を中心に紹介します。

1．作品

平成 17 年（2005）7 月、杉浦日向子は 46 歳でこの世を去りました。杉浦の死後も、未発表作品が続々と出版されています。そのなかには、生前発表された作品中から彼女の珠玉の言葉を集めた『粋に暮らす言葉』（イースト・プレス /2011）、『憩う言葉』（イースト・プレス /2011）があります。

その序文で兄の鈴木雅也が本作品について次のように著しています。「杉浦日向子があらわす「江戸」は、読んでいくうちに自然と肩の力が抜けていって呼吸も楽になり、悩みが溶け出していく世界だと思うのです。」としており、また、「この言葉集を読んだ後に、杉浦日向子の作品を読み直してみることにより、マンガでもエッセイでもどんなものでも、より立体的に見えてくる」といいます。

その他にも、幻のカラーマンガをまとめた作品集である『花のお江戸の若旦那』（河出書房新社 /2016）や、『江戸へおかえりなさいませ』（河出書房新社 /2016）、『江戸を愛して愛されて』（河出書房新社 /2016）、『江戸の旅人 書国漫遊』（河出書房新社 /2017）など、単行本未収録のエッセイ、マンガ集などの作品が出版されています。

2．映画化

平成 27 年（2015）、杉浦日向子原作の 2 作品が映画化されました。

『粋に暮らす言葉』（イースト・プレス /2011）

杉浦日向子が 24 歳のときに手がけた作品である『百日紅』は、葛飾北斎と娘のお栄（えい）を中心に、それぞれの人生の営みを活き活きと描いています。確かな時代考証は、北斎が生きた時代の匂いさえ身近に感じさせるほどです。本作は長篇アニメーション作品として公開され、監督には杉浦日向子を敬愛する原恵一が、またお栄の声優は、杉浦作品のファンである女優の杏が、そして生前の杉浦がよく曲を聴いていたという椎名林檎が主題歌を務めています。

本作品は、のちに「Miss HOKUSAI」のタイトルで海外でも上映され、フランスの第 39 回アヌシー国際アニメーション映画祭で長編部門審査員賞、カナダの第 19 回ファンタジア国際映画賞では 3 冠受賞の他、多数の賞を受賞しています。

また、江戸時代末の上野戦争での彰義隊（しょうぎたい）に焦点をあてた『合葬』は、杉浦日向子が 24 歳のときに発表した作品です。時代の転換期を一途に生きた彰義隊の悲劇を描いた歴史ロマン作品で、映画化にあた

り松竹が製作し、実写化され公開されました。

監督は小林達夫が、主演は柳楽優弥と瀬戸康史が務めました。本作品は、カナダの第 39 回モントリオール世界映画祭のワールド・コンペディション部門に出品されています。

杉浦日向子の作品は、このこともきっかけとなりマンガやエッセイなどが翻訳され、今では広く海外で読まれています。

3．海外で出版されたマンガ、エッセイ

海外での映画上映などをきっかけに杉浦作品が翻訳され、出版されています。

平成 18 年（2006）に『二つ枕』のフランス語版が出版されました。本書は、『杉浦日向子全集』第 1 巻（筑摩書房 /1995）をフランス語訳したものです。

他にも『㐂ひもせす』や『百物語』、『百日紅』などのマンガや、『一日江戸人』のエッセイが出版されています。杉浦作品は、フランスをはじめとして、ポーランドや中国、台湾、スペインの世界 5 か国で翻訳・出版されています。

それぞれの国で出版された作品は下表のとおりです。

書名	出版された国
二つ枕（全集版）	フランス
百日紅（Miss HOKUSAI）⑴、⑵	フランス
㐂ひもせす	ポーランド
百物語	中国
一日江戸人	中国
百物語（上）、（中）、（下）	中国
百物語	台湾
百日紅	台湾
一日江戸人	台湾
百日紅（MISS HOKUSAI）⑴、⑵	スペイン

さらに、令和元年（2019）イギリスの大英博物館においてマンガをテーマにした展覧会「The Citi exhibition Manga マンガ」（会期：5 月 23 日～ 8 月 26 日）が開催されました。そのなかで、「過去からまなぶ」というコーナーで杉浦日向子の『百日紅』が取り上げられ、海外で多くの人が目にする機会となりました。

4．杉浦日向子のメッセージ

杉浦日向子が亡くなってからも、彼女についての雑誌や書籍が多数出版されています。

平成 20 年（2008）には、『ユリイカ』（青土社）で特集号が組まれました。単行本未収録作品の他にも、『ユリイカ』で過去に杉浦が対談したもの、兄の鈴木雅也をはじめとするゆかりの人たちの回想・エッセイなどが収録されています。

また、平成 27 年（2015）には『KAWADE 夢ムック』（河出書房新社）において「杉浦日向子 江戸の旅人（没後 10 年記念特集）」の特集が組まれました。本書は、単行本未収録のエッセイやイラスト紀行、漫画や講演会・インタビューが収録されるとともに、映画「百日紅」「合葬」の監督・出演者のインタビュー等が収録されています。そして生誕 60 周年の昨年（2018）、『KAWADE 夢ムック』（河出書房新社）が増補新版として発行され、「杉浦日向子 江戸から戻ってきた人」の特集が組まれています。

平成 21 年（2009）には、杉浦とゆかりのある田中優子（法政大学学長）と佐高信（評論家）による『杉浦日向子と笑いの様式』（七つ森書館）が出版されました。本書には、過去の対談集や 2 人にとっての杉浦の思い出などが掲載されており、没後も私たちに「江戸」を紹介しています。

杉浦日向子は平成 17 年（2005）に亡くなりましたが、発表された多くの作品や言葉などから彼女の視点を通して、現在でもわたしたちに江戸の魅力を伝え続けてくれているのではないでしょうか。

最後に、杉浦日向子の言葉を紹介します。

本を読んでくれた人からいただく、一番うれしいことば。「なんだかいいね」。すごく良かった、ではなくて、どこがどうってわけではないけれど、なんとなく心に残った、と言われると、しみじみとうれしい。

【図版以外の主な参考文献】
田中優子・佐高信『杉浦日向子と笑いの様式』（七つ森書館 /2009）
杉浦日向子 著 / 鈴木雅也・鈴木弘子 監修『憩う言葉』（イースト・プレス /2011）
『百日紅～ Miss HOKUSAI ～オフィシャルガイドブック』（マックガーデン /2015）
『江戸へおかえりなさいませ』（河出書房新社 /2016）